

第1回大阪広域ベイエリアまちづくり推進本部会議

《議事概要》

■日時：令和元年10月31日（木）16:00～17:00

■場所：大阪府庁新別館北館 4階 多目的ホール

■出席者（名簿順）：別紙「出席者名簿」のとおり

■要旨：

○開会

本部長（吉村知事）

大阪府、大阪市、堺市がベイエリアについて一体で議論できる体制が整ったことは大阪にとって非常にプラス。大阪が本来持っている、ベイエリアが持っている力を発揮できる仕組み、まちづくりをぜひやっていきたい。ひるがえってみれば、世界の大都市はベイエリアが一番力を持ち、まさに賑わいがあって価値の高いエリアである。一方大阪では、これまで大阪府、大阪市、堺市がばらばらにやってきたが、いまはこれ一つになって物事を進めていこうという強力な推進体制が整っていると思う。これを機に、大阪の広域ベイエリア全体のまちづくりを進めていきたい。

2025年には夢洲で大阪・関西万博が開催され、IRの実現を目指して動いている。国内外から多くの投資やお客さんが右肩上がりが増えてきている状況。一方、泉州地域、南大阪の地域においても、関空やりんくうタウンなど集客の拠点があり、百舌鳥・古市古墳群が初めて大阪の世界遺産として登録された。そして2031年になにわ筋線が開業するということをみれば、大阪市のベイエリアだけでなく、大阪全体の広域のベイエリアを強化していく、まちづくりの体制を強めていくということを是非この会議で意思統一してやっていきたい。

世界には釜山、上海など非常に強力な港がたくさんあるが、そこに負けない大阪のベイエリアをつくっていきたい。

○資料説明

事務局（大阪府）

大阪広域ベイエリアまちづくりの検討について資料1により説明

事務局（大阪市）

大阪市ベイエリアの状況について資料2-1により説明

事務局（堺市）

堺市ベイエリアの状況について資料2-2により説明

○意見交換

事務局

資料説明をしたが、今後の議論は広く各地域の資源に注目することになる。規模の大きなもの、小さなもの、既存のもの、あらたに開発を伴うもの、資源としてはまだその価値に気づかれていないものなど多様である。そういった地域の資源を見出して、価値、質を高めるためにどう磨くのか、さらにその資源、地域の人、ものを広域的にどうつないで連携してゆくのか考えてゆきたい。また、

民間主導も大切なキーワード。まちづくりの担い手はもちろん地域の人々、市民、府民であるが、企業も含めた民間の力を最大限に引き出すことが重要。行政の担う役割としては、民間の発想、アイデアを活かすために規制緩和や公民連携によってリーダーシップを持った民間の動きやすい環境づくりが重要。

先行して、大阪市堺市のベイエリアに焦点をあてるが、今後、大阪広域ベイエリアのまちづくりについて、将来像や整備の方向性を具体的な地域の資源に着目して議論していくことになる。意見提案をお願いしたい。

本部長（吉村知事）

大阪市と堺市のベイエリアの状況の話があったが、ベイエリアを活性化させていくために民間との連携が必要になってくる。IRは大阪市、大阪府が中心になって進めているが、投資するのは民間で、民間との協力なくしてベイエリアの活性化はないのではないかと。公民連携や規制緩和など、民間が参加しやすい仕組みを是非考えてほしい。

副本部長（松井大阪市長）

これまで大阪の経済を引っ張って来たエリアは大阪の中心地。コアは梅田から難波の間が大阪の経済の中心といわれてきたが、世界のスタンダードでいうと、ベイエリアというのはにぎわいの拠点であり、物流の拠点でもあり、そのエリアの経済を成長させる非常に高いポテンシャルを持っている。しかし大阪の場合はこのベイエリアがこれまで注目を浴びてこなかった。今回、万博、IRで大阪市のベイエリアはある一定の注目をされ、ポテンシャルが非常に高く評価されているが、それだけではもったいない。ぜひ司令塔を作って全体をマネジメントしながら、堺を含めたこのベイエリア全体を一大拠点としてつくってゆくのがこの会議の役割であると思う。

府市は来年には港湾の維持管理運営業務を一元化し動かしてゆく。そうなるとそのトップはそれぞれの役所が関与するものの、中の事務体制、執行体制は一元化してすごいスピードで動き出す。こういう組織がどう動けばにぎわうのかというアイデアを、みんなです非だしてもらいたい。

堺においては、これからのにぎわいの部分でインバウンドをどう広げていくかというのがあるが、認知度が低いことが一番の問題点だと思う。堺市長に考えてもらわないといけないが、たとえば認知度を上げようということで阪急は梅田の駅を大阪梅田という名前に変えた。海外からのお客さんにすると堺というのが大阪の中にあるということがわかってないのではないかと。というところがあり、堺の認知度を上げるには、ネーミングも含めて考えるのが一番かと思う。堺は堺で、というのが長く続いてきたから、堺というのが大阪の隣にあるすごく便利な場所ということもなかなかお客さんには伝わっていない。それをいかに知名度を上げていくか。G20をやった時も「大阪サミット」で、大阪の知名度は世界に売れたが堺の知名度がない。でも大阪堺だったら。そこをどう伝えるのか。一番伝えていく工夫が必要かと思う。

副本部長（永藤堺市長）

地域別の訪日外国人の滞在者数を見ると、大阪市が252万人で堺市泉州を合わせても4.9万人と50分の1しか地域に訪れておらず、本当に一目瞭然である。同時に可能性を活かしきれていないという現状を本当にもったいないと思っている。

大阪市からの説明にもあったとおり、今の大阪市のベイエリアは、現代のにぎわいだと思う。一

方で、堺泉州は歴史文化で差別化できるのではないかと考える。先ほど、吉村知事がベイエリアは一つということを言われていたが、私もまったく同意見である。現代のにぎわいをもつ大阪市は、2025年の万博、I Rを通じてさらにこれから発展していくことになると思うが、それに奥行きを、層の厚さを与えるには、歴史文化という面で海から発展した堺というのは大いに大阪ベイエリアの活性化に寄与できると考える。今の外国人観光客はアジア中心だが、例えばアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアの方々は歴史文化にも非常に関心が強いということなので、外国人観光客の受け入れという面でも、効果を発揮できると思う。

もう一点、まず大阪市・堺市の範囲で検討し、第二段階で泉州ということだったが、泉州という地域もこれまであまり注目されてこなかったと感じている。併せて、泉州の方々も少し自己評価が高くないのではないか。すばらしい場所はたくさんあるが、なかなか発信できずに埋もれてしまっている状態だと思う。泉州には、天然の美しいビーチがある。ハイキングコースもある。リゾート地になる可能性があるし、食の文化、海の幸山の幸もある。だんじりをはじめとした文化もあるので、これらもぜひ併せて、層の厚さを一重二重三重にも併せていく面で、泉州の可能性というのは高いと思うので、あまり遅くならないように第一段階と同じぐらいで、泉州ということも注目されると、より効果が増すのではないかと思う。

あと、堺のネーミング、知名度を上げるということだが、私も先日フランスのパリで旅行業者の方々と話をしてきたが、堺ってどこなのと、大阪にあるということがまだ認知されていない。だから、この堺をどうやって、大阪の中の堺ということを知っていただくかと。これは堺の中でもやっていくし、是非みなさんとも知恵を出し合って高めていきたいと思う。

本部長（吉村知事）

訪日外国人の滞在者数の話が出たが堺が圧倒的に少ないと思う。堺はポテンシャルが高いエリアだと思うが圧倒的に少ない。これは堺市ではどう分析されていて、これからどういうふうにしたらこれが増えてくる、つながってくるという考えはあるのか。

宮前堺市文化観光局長

知名度がないのが課題と考えている。

世界遺産になったということで、特に欧米の方々には知名度が上がれば人気は出てくると考えている。現在、高野山と連携して誘客を進めようと考えている。高野山は本当にたくさんの海外の方が来られており、連携していくことが必要だと考えている。

あと、私もフランスの方々と話をした時に感じたが、今大阪がオーバーツーリズム気味になっており、その受け皿として、堺もしくは泉州に来ていただくことが必要だと考えている。大阪市の中心部と連携し、人の流れをつくっていくことで、堺にもたくさん来ていただく取組が重要かと思う。

本来だとホテル等があれば夜にもっとたくさん来ていただけたらと思う。今のベッド数が大阪市とは格段に違うので将来的な課題として考えている。まずは、日中の人の流れをつくっていきたいと考えている。

西田大阪府商工労働部長

産業集積という観点でベイエリアの関連している部分について情報共有だけさせてもらいたい。資料1-3-③の右の方に工場夜景とあるが、堺泉北臨海工業地帯いわゆる堺泉北コンビナートでは、

三井化学、大阪ガス、D I C等の大企業がある。ここが府内の製造品出荷額の約20%、3兆円位出荷されており、非常に大きな産業集積になっている。工場夜景については、高石市が頑張られていて高石市の商工会議所等と年に春と秋の2回くらい、川崎の重工業地帯もやっているが、いわゆるナイトクルーズ、船を出したりあるいはバスで工場地帯の夜景ツアーをやられている。一方で我々は、ここの工業地帯が歯抜けにならないように、堺・泉北臨海コンビナート内の民間企業と堺市・高石市・府が一緒になって、堺泉北ベイエリア新産業創成協議会というのをづくり、ここに何とかさらに新たな工場集積等ができる取組みを進めている。参考までに紹介した。

もう一点は、資料1-2-①の左の図の大阪湾の先っぽが岬町であるが、ここの多奈川地域で、関電が1号2号の発電所を持っておられたが両方とも廃止された。

1号の方は10haくらいあるが分譲の形で企業集積を図っており、2号の方はこれから岬町と関電で地域のヒアリングをかけられ、これからここをどういう風に跡地利用していくかということが検討されている。これが30haぐらいいり、結構大きなところなので、ここを我々も一緒に、ヒアリングの結果で関電がどうされるか決めた後になると思うが、産業集積あるいは雇用創出あるいは地域のにぎわいつくりなど、その辺の対応を踏まえて一緒に協力させていただこうと思っている。またこの本部会議で議論させてほしい。

以上、ご紹介、情報共有させていただいた。

本部長（吉村知事）

組織として重要なところ、幹事会が重要なところだと思う。もちろんこの3首長をトップとした推進本部であるが、じゃあ具体的にどうやって練りこんでいくのというところで幹事会、田中副知事と高橋副市長と堺市の担当の副市長、それから関係部局、この幹事会が非常に重要になってくると思う。ここは田中副知事を実質トップにして、是非まとめていってほしいと思う。

大阪府と大阪市の港湾、大阪府の港湾は堺泉北港だが、来年の10月からここは一元化していく。幹事団体が大阪市になる。そういった意味で港湾局長の役目も重要になってくるだろうと思う。

そこを連携して、どうやったらこのエリア、まず大阪市、堺市を含めたこの港湾、堺泉北港、大阪港のまちづくりをしっかりとまとめてもらいたいと思うが、田中副知事どうか。

田中副知事

いま知事から指示があったように、私と両市副市長、関連部局で、幹事会をできるだけ早く進めたいと思っている。幹事会では、当然今日いただいた意見や指摘、それに加えて有識者、学識経験者、関西経済界などの意見ももらいながら、議論を進めていきたい。

令和3年春とりまとめを予定しているが、その前に来年度の夏ぐらいには一定の方向性、特にリーディングプロジェクトとして期待される夢洲に近い大阪市・堺市のベイエリアの方向性等をまとめてこの推進本部に諮りたいと考えている。3団体協力してやっていくので、みなさん協力よろしくお願ひ。

高橋大阪市副市長

大阪市では、夢洲については午前中のスマートシティ戦略会議でも報告したように、スーパーシティ戦略構想のアイデア公募に今日キックオフさせていただいた。あるいは今日の資料にもあるように、府・市・経済界で夢洲まちづくり基本方針をつくっているの、まずは夢洲のまちづくりの

基本計画を関係者でしっかりつくっていききたい。

これを核に大阪ベイエリアの将来像をきちんとつくっていききたいが、例えばこれから堺市と連携する中で、資料 2-2 の一番最後のページの堺浜のところ、都市再生緊急整備地域ということで開発に際して緩和できるエリアがあり、堺市、大阪府と連携しながら、こういったエリアを夢洲あるいは堺と連携しながらどう活用できるのかというのを知恵をだしてあげたいと思っている。これもしっかりと幹事会で議論していききたい。

本部長（吉村知事）

堺では、都市再生緊急整備地域のまちづくりは、一定方向性は決まっているのか。どんな感じになっているのか。都市再生緊急整備地域は、うめきた等でもやっており、新大阪も候補に選んでもらっている。

窪園堺市建築都市局長

都市再生緊急整備地域については、現在、一定、商業施設や映画館等が入り、にぎわいをつくるということもまち全体としてやっている。この方向性としては、都市再生緊急整備地域の方向性に合わせながらということだが、これまでは、テナント対策に苦勞していた。この会の設立と併せて、閑空からのインバウンド効果が堺でも現れてきており、それも併せて、にぎわいのあるまちづくりを、大阪府、大阪市の協力を得ながら、一緒にやっていきたい。

本部長（吉村知事）

まちづくりはできあがっているのか。

窪園堺市建築都市局長

まちづくりについては、テナント等はだいたいできあがっている。ただ、テナントと海岸の間に一部まだ空き地があり、当初の進出企業が進出してないところがある。

本部長（吉村知事）

夢洲で万博、I R が実現してくれば、海上交通も、堺の都市再生緊急整備地域からこのエリアとすぐ近くであり、そこが繋がれば大きな需要も出てくると思う。そういうことも是非考えていただきたい。よろしく願います。

〇閉会

事務局

先ほど知事からあったとおり、今後は副知事、大阪市副市長、堺市副市長をトップとした幹事会を設けて詳細に検討を進めたい。事務局も府、大阪市、堺市でしっかりコミュニケーションをとってまとめていきたい。